

# 来街者数の見える化で、自主財源確保を目指す

## DATA

導入活用目的		Profile
導入活用目的	来街者数の見える化	一般社団法人戸越銀座エリアマネジメント URL : <a href="https://www.togoshiginza.or.jp/">https://www.togoshiginza.or.jp/</a>
テクノロジー	Webカメラ、AIによる解析 Wi-Fi(4G)、スマートフォン	



戸越銀座エリアマネジメント  
理事 遠藤利夫氏



東京システムハウス  
IoTサービス事業部  
課長 原口孝氏

「時間帯ごとの混雑の様子はどうか」東京都品川区の戸越銀座商店街ではデジタルサイネージに時間帯別の来街者数実績が表示され、コロナ禍において、買物時間帯の判断をサポートしている。

カウント数はスマートフォンアプリを通じて商店街加盟店にも配信される。

### 人が集まりすぎる商店街 その実態をつかみたい

「食べ歩き」の聖地といわれる戸越銀座商店街は、3つの商店街からなり全長約1.3km。店舗数は約400件である。近隣住民に加え休日には観光地として広域から顧客が訪れる。

防犯カメラの映像を活用し、来街者のカウントをスタートしたのは2020年のことだった。

商店街の理事らが設立した一般社団法人戸越銀座エリアマネジメントでは、商店街が自主財源を確保し多彩な企画を展開するには、現状を数値的に把握することが欠かせないと考えていた。

きっかけは、地元のIT企業・東京システムハウスが幹事を務めるIT企業の勉強会「KT-NET」に商店街を招き、地域課題をヒヤリングしたことだった。同社がITによる解決策を提案し、プロジェクトがスタートした。

東京システムハウスの原口孝氏

は、「商店街組合員数が多く、情報を届けるだけでも時間がかかっていると聞き、商店街内の情報共有のスマートフォンアプリを開発すること、防犯カメラの映像をAIで解析し人数をカウントするシステムを提案しました」と当時の様子を振り返る。

アプリには、TV等の取材情報や各種連絡が通知される。

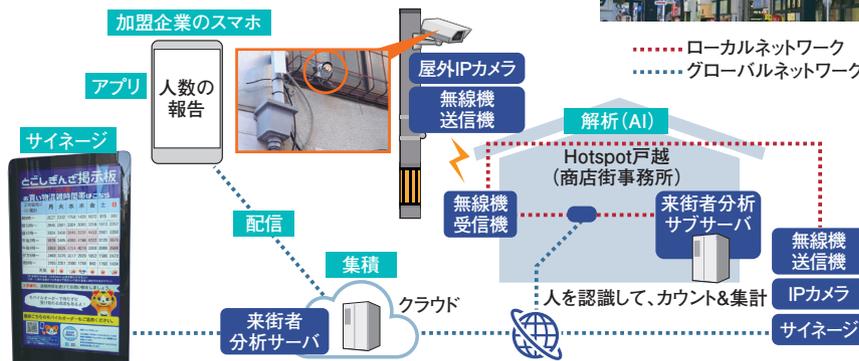
### 防犯カメラの映像を 個人情報に配慮して解析

来街者数は、商店街2か所に設置されたカメラの映像を、Wi-Fiおよび4Gで収集し、個人を特定せずにAIでカウント。日ごとの数値を組合員のアプリに配信している。

同時に通りに設置したデジタルサイネージにも情報公開し、コロナ禍において顧客が気になる混雑状況を把握できるようにした。

戸越銀座エリアマネジメント 理事

図 戸越銀座における来街者カウントシステム



の遠藤利夫氏は、ここまでの成果を次のように話す。

「商店街の基盤となる来街者数が見える化できたことは大きな成果です。個々の店舗からは、人数の多さに驚く声もありました。商店街を、PRやマーケティングの場として使っていたり、JR五反田駅から戸越エリアまでのエリア全体を活性化する取り組みを進められるなど、可能性が広がりました」

羽田空港へのアクセスの良さから、コロナが落ち着いた際にはインバウンドへの期待も高まる。来街者カウントを基盤に次世代の商店街づくりが始まりそうだ。

